

## 観音講の道標

水堰橋のそばに、鎌倉市指定有形民俗資料になっている安山岩で出来た板石駒型の道標が立っています。幅約四十センチ、高さ九十センチ余で正面上部に如意輪観音坐像が浮彫され、その下に「右とつか」、「左藤さわ」、更にその下に「道」の字が雄筆で太く薬研彫されています。橋の手前は鎌倉古道の交差点で、道標は東海道の戸塚宿と藤沢宿への方向を示す役割を果たしていました。十八世紀末に作成された浦賀道見取絵図にも道印石の名で描かれています。

鎌倉周辺に多くの道標がありますが、ほとんどは角柱で文字だけのものも多く正面に仏像神像が彫られたものでも道しるべの文字は左右の面に彫られており、この道標のように正面に像が彫られ道しるべの文字も正面に彫られているものは鎌倉周辺ではとても珍しく、確認できる中でこの他には玉縄の首塚にある一七二八年に建てられた供養塔だけです。

この道標は、近在の女性達で組織したと考えられている観音講が一七二七年に造立しました。これは、観音霊場の起点である鎌倉において民間信仰による奉仕活動が行われていたことを思わせ、観音信仰の面での民俗資料としても、この道標は貴重であると言われています。